

〔2〕ドイツの「森の幼稚園」の視察報告

ドイツ フライブルク市 リーゼルフェルト団地の「森の幼稚園」

海上の森センターでは、平成 19年9月に「幼児森林体験推進事業」の実施に先立ち、森林を活用した幼児教育の盛んなドイツの先進事例を調査しました。

(1) 調査場所

ドイツ フライブルク市 リーゼルフェルト団地の「森の幼稚園」

(2) ドイツ フライブルク市の概要

フライブルク市はドイツ南西部に流れるライン河より約 23km東に位置し、南側にスイス、西側にフランスと国境を接しており、東側にシュバルツバルト（黒い森）を控えた自然豊かな地理条件にあります。

人口約21万人のフライブルク市は、35 年前の州の原子力発電所計画に対する反対運動をきっかけに、エネルギー対策などの環境行政を徹底しており、1992年にドイツ全土を対象とした環境コンクールにおいて「環境首都」に選ばれている。また、ドイツ最大の環境 NGO「BUND」の本拠地でもあり、環境教育の盛んな地域です。

市内には「森の幼稚園」が5つあり、そのうち3つは今回調査を行ったリーゼルフェルト団地に隣接する森林で活動しています。





丘から見るフライブルク市街



フライブルク市役所

(3) 視察内容

【視察先】

リーゼルフェルト団地「森の幼稚園」

1日目：リーゼルフェルト幼稚園 (Gruppe Rieselfeld) (※R)

[園児 21 人、保育士 3 人 (うちインターン 1 人)]

2日目：ムースバルト幼稚園 (Gruppe Mooswald) (※M)

[園児 24 人、保育士 4 人 (うちインターン 1 人)]

【視察内容】

森の幼稚園の活動プログラムに参加し、幼稚園の先生への聞き取りと、周辺森林の整備状況を調査しました。

【視察先の概要】

リーゼルフェルト団地は、フライブルク市街地から市電で 20 分程度離れた郊外にある振興住宅地であり、モデル的都市計画として、320ha の敷地のうち、250ha を自然保護区域として森林景観を残し、自然学習道を整備するなど、環境にやさしい住宅開発を目指しています。



市街地から団地に乗入れている市電



リーゼルフェルト団地の様子

今回視察した2つの「森の幼稚園」はいずれもその自然保護区域内の森林を拠点として活動しており、3歳～7、8歳までの異年齢の子どもたち20数人を3人程度の保育士で受け入れている。いずれの幼稚園も市から助成金を得ている公認の幼稚園であり、森林所有者である市が森林整備を行うなど行政支援のもとで経営されています。

団地から森林内の林道を50m程入ったところに活動拠点となる広場があり、林道への車の進入が制限されているため、朝の登園は自転車の利用が徹底されています。



朝の登園の様子（※R）



子ども用のリヤカー付き自転車（※R）

保育時間は午前中だけで預かり時間が短く、料金は普通の幼稚園に比べて高めの設定となっているにもかかわらず、人気が高く入園希望が後を絶たないとのことでした。

活動内容としては、子どもの気づきや意向を尊重して自由に森を体感させることを主な目的としているため、特に決められたプログラムはないが、保育士は季節にあったテーマを子どもに提示するなど補助的な役割に徹しています。



朝のあいさつの様子（※M）



活動拠点の広場の様子（※R）



森の中で食材用の木の実を探す（※R）



朝ごはんづくりの様子（※R）



森の中で自由に遊ぶ子どもたち（※R）



工作も森の中で行う（手形づくりの様子）（※M）

周辺の森林状況としては、落葉広葉樹林の明るい林内であり、特に草刈などの整備を行っていないとのことでしたが、日本に比べ降水量が少ないこともあり、雑草が繁茂している様子はありませんでした。当該地で幼稚園を始める際に、活動拠点の広場となる区域のみ低木の除伐を行っただけで、施設整備等はほとんどしていないとのことでした。

今回の視察では活動拠点の広場での活動しか見られませんでした。周辺の森林内へ移動して活動することもあるとのことでした。その周辺の森林には木材生産のための人工林もあり、木材生産や森林の公益的機能についての普及のための展示施設が所々に設置してありました。



落葉広葉樹林の明るい林内



木材生産のための人工林



周辺の森林で産出される樹種を示す展示物



森林土壌の状態を見せる展示物



〔2〕 県内の活動事例

◆「森のようちえん」活動に取り組む団体

（1）森のたんけんたい（春日井市）

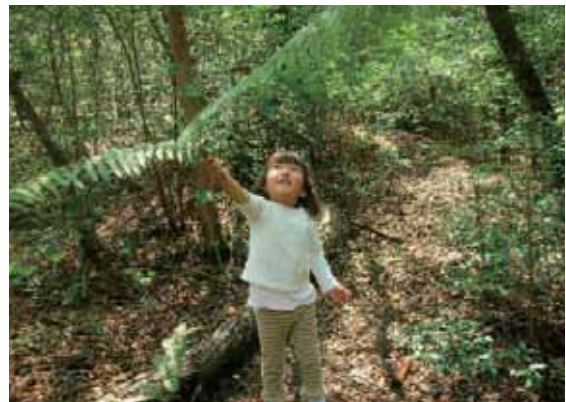
「森のたんけんたい」は 1992 年名古屋市の自主保育サークルと出会い、自然の中での子育てに魅せられた元幼稚園教諭が、“自分の子どもを仲間といっしょに自然の中で育てたい”と願い、引っ越しを機に 1997 年愛知県春日井市に立ち上げた自主保育サークル「おさんぽの会」から始まっています。

代表の小林さんは、16年間 自然の中で 自主保育活動を続けており “多様性にあふれる森は 幼児期の好奇心を刺激し感性・主体性・社会性を育むのに最適な環境である”と実感しているとのこと。

「森のたんけんたい」では 子どもたちが仲間の中で育ちあい自然の中でのびのび遊べる空間と時間を保障できるよう親とスタッフが子どもたちの気持ちに寄り添いながら毎日あたたかく子どもたちの活動を見守っています

「森のたんけんたい」で行っている活動

- ◆自主保育「森のようちえん」（対象：3～6歳） 平日毎日活動 預けあい
- ◆自主保育「おさんぽ」（対象：1～3歳） 週2回 火・金曜日活動 預けあい
- ◆自然体験「野遊び」（対象：3歳～小学生） 月2回 土曜日活動 親子参加





活動の主な内容

- ◆おさんぽ（心身の発達 エネルギーの発散）
- ◆自由遊び（主体性 社会性が育つ場）
- ◆生き物とのふれあい（虫、水中の生き物、馬など）
- ◆水・泥・土とのふれあい（川遊び、どろんこ、田んぼ、畑、カヤックなど）
- ◆自然を利用した遊びや創作（草花・木の実・つる・木・竹、草木染めなど）
- ◆道具の利用（のこぎり、ナイフ、なた、包丁など）
- ◆野外料理 火を使い素材から出来上がるまでの過程を体験する
炊飯、汁物、竹パン、焼き芋、餅つき、おこしもの、流しそうめん、月見団子
- ◆自然の恵み むかご、あけび、桑、椎、つくし、木苺、山栗、野草料理
- ◆危険な生物への対処、有毒植物についての知識
- ◆わらべ唄、歌、手遊び、エプロンシアター、紙芝居など

「森のたんけんたい」からのメッセージ

自分が母親になりたての頃、自主保育活動を通して知った自然の中で仲間とともに子育てをする楽しさ、すばらしさをたくさんの子育て中の人に味わってほしい。仲間と自然の中で過ごせば、子育てが何倍も楽しくなります。まだよちよち歩きの頃からたくさんのお大人に見守られ大きくなれる場所、たくさんの親子にとって居心地のいい、元氣になれる心のふるさととなるような、そんな場所に「森のたんけんたい」がなれたらと願っています。



(2) 森のようちえん ねっこぼっこ (春日井市)

「森のようちえん ねっこぼっこ」は、春日井東部の里山で、園舎を持たず、毎日お弁当を持って3歳～6歳の子どもたちが集まり、野外で保育活動している自主保育グループです。四季の移ろいを肌で感じ、ゆっくりとした時の中で、子どもの主体的な遊びを大切に、五感をフルに使いながら自然と人、人と人の間で人として生きる力・豊かな心・丈夫な体を育てることを目的とし、必要以上に与えない環境に配慮しながら個々の子どもの育ちを温かく見守っています。保護者と保育スタッフが共に協力し支え合い、自主保育・自主運営をし、子どもだけでなく大人も育つ場となっています。

無理なく継続できる団体と子どもたちが、いつでも立ち寄れる心の故郷づくりを目指しています。

代表の織田さんは、かつて自身が育ててもらったように、自然の中で我が子を育てたい、“幼い頃の幸せな記憶から、母になった今、我が子を自然の中で、自然な子どもの育ちを信じて待つてやりたい、見守りたい”そんな気持ちから「森のようちえん」を立ち上げました。

2004年から「森のようちえん ねっこぼっこ」として活動を行っています。この名前には、“目に見えないけれど、人間の一番大切にしたい根っこの部分を ゆっくり育てることで、しっかり根をはった意欲や、乗り越えることのできる子どもに育てほしい”という願いが込められています。

センス オブ ワンダーの世界と昔の子どもたちのように、異年齢の子どもたちの関係を大切にして、のんびり過ごしています。





「森のようちえん ねっこぼっこ」で行っている活動

生活リズムと地域に根ざした暮らしを大切に、森の恵み（おやつ）を頂き、季節の行事、畑仕事、草木染め、手仕事などを行っている

【1 週間のながれ】

月・木・金曜日 → 子どものペースでおさんぽ

火曜日 → 野外料理 水曜日 → にじみ絵

【年間行事】

畑仕事、野草料理作り、羊の毛刈、羊毛仕事、桑の実・木苺摘み、川遊び、キャンプ、あけび狩り、芋ほり、焼き芋、草木染め、冬いちご摘み、蜜蝋ろうそく作り、クリスマス会、餅つき 等

「森のようちえん ねっこぼっこ」の大事にしていること

【育】 育ちを待つ 【感】 感じること

【遊】 好きな遊びが子どもの心を育てる

【体】 体を育てる 【生】 生活リズム 【絆】 人との関わり



◆その他関連施設

プレーパーク

1943年、デンマークで、子ども達が大人が準備した遊び場ではなく、ガラウタの転がっている空き地や廃材置き場で生き生きと遊ぶ姿が発見され、世界最初のプレーパーク“冒険遊び場”がつくられたとされています。公園のように遊具がある場所とは違った遊び場です。

1. てんぱくプレーパーク（名古屋市）

この地方で最初に作られたプレーパークです。名古屋市天白区天白町の天白公園の中にあります。プレーリーダーが常駐し子どもたちの相手をしてします。主に小学生以上の子どもたちが対象です。



2. とよたプレーパーク（豊田市）

2008年度より鞍ヶ池公園に活動場所を移し、隔月で開催しています。ここでは木登り、ロープ遊び、泥んこ、木工、煮炊き、その他毎回違った遊びが展開されています。誰もがふらっと好きな時間に来て、好きな時間に帰ります。



3. そうりプレーパーク（知多市）

知多市佐布里緑と花のふれあい公園で活動するそうりプレーパークは2006年2月4日オープン以来15,000人以上の人がおとずれています。合い言葉は「遊びは生きる力の源です、自分の責任で自由に遊ぶ」で活動しています



〔4〕 海上の森 幼児森林体験推進会議

◆海上の森 幼児森林体験推進会議 開催要領

《第1》 目的

森林を活用した環境教育を推進するため、幼児に海上の森の自然や森林にふれあう機会を提供し、野外活動を通じての情操教育の場として森林を活用するとともに、そのための森林体感プログラムを開発し、活動フィールドの整備方法等を含めたマニュアルとしてとりまとめ、県内における幼児向けの森林体験活動の推進に資することを目的に、「幼児森林体験推進会議」（以下「推進会議」という。）を開催する。

《第2》 検討及び取りまとめ事項

推進会議は、次の事項について検討し、取りまとめを行う。

- (1) 幼児のための森林体感プログラムの開発
- (2) プログラム集とその実施マニュアルの策定
- (3) 海上の森における幼児森林体験フィールドの整備方針の策定・実施
- (4) 幼児森林体験の普及啓発（公開講座の開催）
- (5) その他必要と認められる事項

《第3》 成構員

1. 推進会議は、別表1に掲げる者を構成員とし、あいち海上の森センター所長から依頼する。
2. 構成員には、別に規定されている報償費及び旅費を支給する。

《第4》 議長

推進会議の議長は、事務局が担当する。

《第5》 会議日程

開発会議は、基本的に次の日程で開催する。

- 第1回 現地調査・意見交換
- 第2回 プログラムの検討・フィールド整備方針の検討
- 第3回 マニュアル作成方針の検討・試験運用対象の検討
- 第4回 試験運用・結果検証

その他、必要に応じて構成員の一部による現地実習や研修会などを開催する。

《第6》 事務

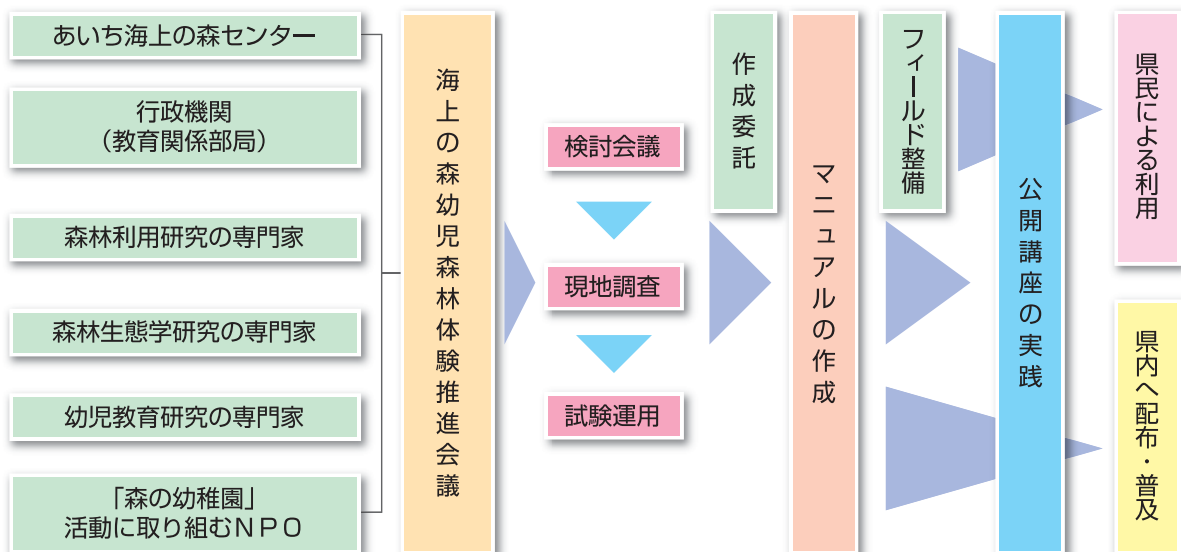
推進会議の事務は、あいち海上の森センターにおいて行う。

◆海上の森 幼児森林体験推進会議 構成員名簿

(敬称略)

1. 上原 巖 東京農業大学 地域環境科学部 准教授
2. 中川 重年 京都学園大学 バイオ環境学部 教授
3. 西村 尚之 名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部 教授
4. 中川 美子 名古屋経営短期大学 子ども学科 講師
5. 篠田 陽作 ネイチャークラブ東海 代表
6. 小林 直美 森のたんけんたい 代表
7. 織田 敦子 森のようちえん ねっこぼっこ 代表
8. 冬木 裕 海上の森の会 幹事
9. 吉田とき枝 愛知県教育委員会 義務教育課 主査
10. 西村祐次郎 愛知県健康福祉部 子育て支援課 主幹

(模式図)



幼児森林体験マニュアル
～フィールドの森づくりと実践活動にあたって～
平成 21 年 3 月

編集協力 海上の森 幼児森林体験推進会議
ネイチャークラブ東海
発行 あいち海上の森センター
〒489-0587
愛知県瀬戸市吉野町 304-1
電 話 0561-86-0606
FAX 0561-85-1841
E-mail kaisho@pref.aichi.lg.jp
ホームページ` <http://www.aichi.jp/kaisho/>



この小冊子は再生紙を使用しています。